

# 日本医学英語教育学会の活動について ～医英検を中心に～

木下裕介<sup>1</sup>、伊達 勲<sup>2</sup>、上山憲司<sup>1</sup>、瀬尾善宣<sup>1</sup>、野呂秀策<sup>1</sup>、中村博彦<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>中村記念病院 脳神経外科、<sup>2</sup>岡山大学 脳神経外科

## Introducing JASMEE (Japan Society for Medical English Education) and Examination of Proficiency in English for Medical Purposes (IEIKEN)

Yusuke Kinoshita, M.D.<sup>1</sup>, Isao Date, M.D.<sup>2</sup>, Kenji Kamiyama, M.D.<sup>1</sup>, Yoshinobu Seo, M.D.<sup>1</sup>,  
Shusaku Noro, M.D.<sup>1</sup>, Hirohiko Nakamura, M.D.<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Nakamura Memorial Hospital

<sup>2</sup>Department of Neurosurgery, Okayama University

連絡先：木下裕介 〒060-8570 北海道札幌市中央区南1条西14丁目 中村記念病院 脳神経外科

Address reprint requests to : Yusuke Kinoshita, M.D., Department of Neurosurgery, Nakamura Memorial Hospital,  
Minami 1-jo Nishi14-chome, Chuo-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 060-8570, Japan

English is absolutely essential for doctors. English is necessary to read and write medical papers, as well as speak and listen at conferences. The importance of English is increasing in medical education due to expansion of globalization in various fields. The Japan Society for Medical English Education (JASMEE) was established in 1998 for the purpose of teaching medical English. A part of the society's work is to conduct and promote the Examination of Proficiency in English for Medical Purposes (IEIKEN). IEIKEN's purpose is to measure the ability to read and write papers related to medicine and listen and speak in English. There are few "medical" examinations around the world so this examination is extremely rare. The examinees are not only doctors, nurses and medical students but also educators, publishers, translators and interpreters. Four grades are used to evaluate medical English. IEIKEN is a good test to estimate the ability to understand medical English.

JASMEE is striving to promote IEIKEN as a standardized test for medical English.

key words: globalization, Japanese medical English teaching, Examination of Proficiency in English for Medical Purposes, IEIKEN

## 1. はじめに

医師にとって英語は必須である。最新の知識を得るにも論文は英語がスタンダードであるし、自施設で得られた知見を国内だけでなく海外で積極的に発信していくためには英語が必要である。日本政府の政策により海外からの観光客は今後さらに増加し、外国人の急病患者などに対応する機会が増加すると思われる。実用レベルで英語を使用している「英語人口」は17.5億人、すなわち世界中の4人に1人が英語を使用している現状に加え<sup>1)</sup>、ますますグローバル化が加速する中、日本の医学教育において英語教育の重要性はさらに増してきている。

## 2. 日本医学英語教育学会とは

医学英語教育学会 (Japan Society for Medical English Education: 通称JASMEE) は、医学英語に関する研究を推進し、医学英語教育向上を図る事を目的として、植村研一先生 (元浜松医科大学脳神経外科教授、現松戸市病院事業総長) を初代理事長として1998年に発足した。以降2代目理事長大井静雄先生 (元東京慈恵会医科大学脳神経外科教授)、3代目西澤茂先生 (産業医科大学脳神経外科教授) を経て、2014年に伊達勲 (岡山大学脳神経外科教授) が就任した。代々脳神経外科医が理事長を務めてきている。

JASMEEの主な事業は1) 学術集会及び会員報告会の開催、2) 会誌の刊行、3) 医学英語検定 (以下医英検) に関する事業、4) 医学英語教育に関する事業、5) その他の目的を達成するための事業、となっている。医学英語に関するセミナーも定期的に開催している (英語で

の論文執筆のコツ等)。

筆者は2015年より評議員を拝命し、学会運営、特に医英検の北海道地区開催の責任者を仰せつかった。

## 3. 医英検とは

本学会の重要な役割の一つに医学英語検定 (医英検: Examination of Proficiency in English for Medical Purposes) の普及と実施がある。医英検は日本の医療・医学の国際化を普遍的に推進する事を目的として、日本医学英語教育学会が主催する医学・医療に特化した英語検定試験である。検定の内容は、医学・看護・医療技術に関する (1) 書籍・文献を英文で読む能力、(2) 情報を英語で聞き/話し伝える、(3) 情報を英文で書く・表現する、を総合的に評価するものである。対象は医師や看護師などの医療従事者や医療系学生はもとより、教育、出版、翻訳、通訳などの業界に携わる職種など多様な受験層を想定している。また、「医学英語」を冠した検定試験は世界でもほとんど例が無く、医学英語運用能力を客観的に評価できる指標として、世界的にも貴重な検定といえる。

1級から4級まで設定され、それぞれの目標はTable1の通りである (なお、2016年8月以降、試験級の名称が変更される予定である)。3,4級試験が2008年に開始、2012年より2級試験、2015年より1級試験が行われる。試験内容はTable2の通りである。2015年の3,4級試験は6/14開催であった。年1回試験が行われる。2015年の受験地は全国10ヶ所で開催された (Fig.1)。特に北海道地区の試験場所は、2015年中村記念病院、2016年札幌医科大学となっているため、札幌在住の方には受験しや

医英検 等級と達成目標の目安	
1級	医学英語教育を行えるレベル (2級受験者を指導できるレベル)
2級	英語での論文執筆・学会発表・討論を行えるレベル
3級	英語で医療に従事できるレベル (医師・看護師・医療従事者、通訳・翻訳者、等)
4級	基礎的な医学英語運用能力を有するレベル (医科大学・医療系大学在学あるいは卒業程度)

Table.1 The goal of grades

試験時間・出題内容	
1級	面接試験 (30分)、医学英語あるいは医学英語教育に関する業績の事前審査
2級	筆記試験 (80分、自由筆記3問)、プレゼンテーション試験 (口頭発表10分、質疑応答15分)
3級	筆記試験 (90分、70問程度: 語彙30問程度、読解40問程度)、リスニング試験 (30分、15問程度)
4級	筆記試験 (90分、60問程度: 語彙25問程度、読解35問程度)

Table.2 The detail of the examination for grades

#### 4. 今後の展望

医英検の試験内容および試験結果の分析を委員会で行っているが、識別指数が極めて高く、実力が実力どおりに発揮される良問と判断されている。2014年までの過去7年間で2000名の受験者であった。今後さらに受験者を増やすべく普及活動を行っていく。ゆくゆくは英検の医学版、医師などの採用の際の参考になる資格として確立されていく事を目指している。

また、学会ではますます加速するグローバル化に対応するため、日本の医学英語教育水準を向上させる目的で「医学教育のグローバルスタンダードに対応するための医学英語教育ガイドライン」を策定中である ([http://www.medicalview.co.jp/JASMEE/Guidelines\\_Jpn.pdf](http://www.medicalview.co.jp/JASMEE/Guidelines_Jpn.pdf))。

日本の医学英語水準を向上させるべく、日々活動を行っている。興味のある方はぜひ医学英語教育学会のWebサイトをご覧ください (<http://www.medicalview.co.jp/JASMEE/>)、入会をお勧めする。

#### 文 献

- 1) Tsedal Neeley. Global Business Speaks English. [引用 2016-10-19] Available from URL <https://hbr.org/2012/05/global-business-speaks-english>



Fig. 1 The poster of 8th Examination of Proficiency in English for Medical Purposes



Fig. 2 The textbook of Examination of Proficiency in English for Medical Purposes for 3rd & 4th grade

すい環境にあると思われる。

学習の仕方として、3・4級に関しては、メジカルビュー社より「日本医学英語検定試験3・4級教本 第3版」(Fig.2) が出版されているため、ぜひ利用していただきたい。Webサイト上で出題内容のプレビューも可能である。2級以上からは受験申請時に英語での学会活動、教育実績などを英文履歴書にまとめて提出する必要がある。また実際の試験は2級:筆記試験、プレゼンテーション、1級:座長のロールプレイ、面接、となっており、日々の研鑽が必要な試験となっている。

